

はっぴーの家ろっけん

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 ()
〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()
〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. オープンスペースの様子①

はっぴーの家ろっけんの共有スペースでは、くつろいでいるおばあちゃんの隣で仕事をしている人や遊んでいる子ども等、皆が思い思いに過ごしている。皆が違う目線を持ちながら、それでも同じ空間にいる、そんな「日常」がここにある。

見学月日：2019年3月24日

見学者：鈴木、藤原

案内者：岩本茂さん（ケアマネージャー）

■概要

建物種別：サービス付き高齢者住宅

所在地：兵庫県神戸市長田区 1-1-8

事業主：株式会社 HAPPY

開設：2017年3月

建物：新築 / 6階建 / 鉄筋コンクリート造

1階 オープンスペース

2～4階 住戸

戸数：45戸（全室個室 / 夫婦入居可）

家賃：105,000～ / 月（安否確認・生活相談料込）



写真2. 周辺状況 (google mapより)

神戸市営地下鉄 海岸線新長田駅から徒歩12分程に位置する。六間道商店街を抜けてすぐの所にあり、周辺には低層住宅や小学校、公園がある。



写真3. はっぴーの家ろっけん外観

訪れる人それぞれが定義して欲しいという思いから、看板等は一切作っていない。南西の道路に面した場所に入口がある。

■事業に至った経緯

約10年前、空き家の再生事業で独立し、古民家等の再生を手がけていく中で、高齢者の暮らしに選択肢が少ないことに気が付き4年前より福祉事業に参入した。更に自身の大家族生活の実体験より、多世代のコミュニティを構築し暮らしと連携していくことで、様々な社会問題を解決することを実感し、はっぴーの家プロジェクトを始めた。

施設を建てる場所は地元である長田に決め、土地は購入した。地域の人々の声を収集するためのワークショッ

参考文献

- 1) Soar, 「これが現代版の「大家族」！介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」で子どもから高齢者までが楽しく暮らす」,<<https://soar-world.com/2017/12/20/happynoierokken/>>, 参照 2019.3.28
- 2) KAIGO LEADERS, 「【イベント情報】CONA_01 介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」に学ぶ、地域コミュニティの作り方」,<<http://heisei-kaigo-leaders.com/activity/cona01>>, 参照 2019.4.1

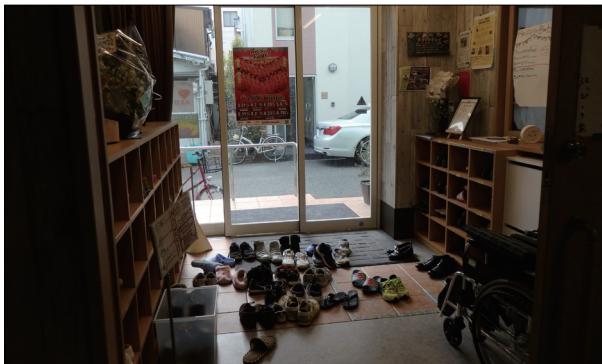


写真4. 玄関

休日の昼ということもあり、子ども達が沢山遊びに来ていた。誰でも気軽に入ることができるが、感染症対策として手洗いがいは徹底している。



写真6. オープンスペースの様子③

テレビが2台あり、テレビ鑑賞とゲームを同時にできるようになっている。

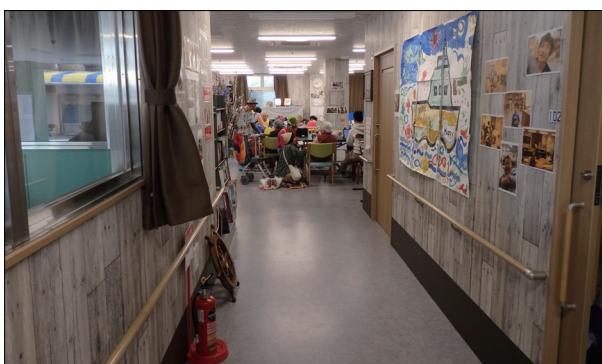


写真8. 廊下

1階のオープンスペースから続く廊下の様子。

普を行い、高齢者施設をつくるとは言わずに、アイデアを求めた。ワークショップは何度も開かれ、地域の人々が「"エンターテイメント"のある場所を求めている」という事が見えてきた。その後「エンターテイメントな場所」というコンセプトに沿った設計を進め、2017年3月に無事オープンした。



写真5. オープンスペースの様子②

地域の方からいただいた卓球台や家具が並んでいる。それぞれにストーリーがあるからこそ、愛着が沸く。卓球台は卓球をしていない時も机として利用している。



写真7. キッチン

居住する高齢者への朝晩の食事を作る以外にも、ママ友で集まって料理をしたりすることもある。



写真9. 図書ルーム

付近にある小学校の学区内に図書館がないため、図書ルームを用意しており、静かに利用することが決められている。

■ 交流

- ・日常的に交流がうまれており、職員が定期的にイベントを企画して交流を促すルール作りはしていないが、外部の人達がイベントを企画して持ち込んでくれることは多くある。
 - ・映画鑑賞をする場合は、ソーシャル、家族にまつわるような内容のものを扱うことが多い。
 - ・週に延べ 200 人の多世代、多国籍の人々が訪れている。

■入居者

入居者は口コミによって集った。現在 45 戸中 20 戸が埋まっており、代表の首藤さんのみ家族で暮らしている。空き住戸は宿泊体験で利用してもらったり、モデルルームにしたり様々な使われ方をしているため、多くても埋めるのは 35 戸までかなと思っている。

認知症等の持病を抱えている方も多く入居している。それぞれの病気の特徴を理解することは、介護を行う上で大事なことだが、ろっけんでは病気を理由に規制や抑制を行うことはしない。むしろ、その人の病気の症状や特徴を個性と捉えて、活かせる機会を積極的につくっている。

■ 職員

介護士 5 名、看護師 5 名、その他スタッフを合わせて 15 ~ 20 名程の職員がいる。事業主である株式会社自体には 50 名程の職員がいる。介護福祉士の雇用に苦労する高齢者施設も多くある中で、ろっけんは採用広告費を使ったことがなく、職員の多くは代表である首藤さんがイベントで出会った人やろっけんに遊びに来てくれた人である。

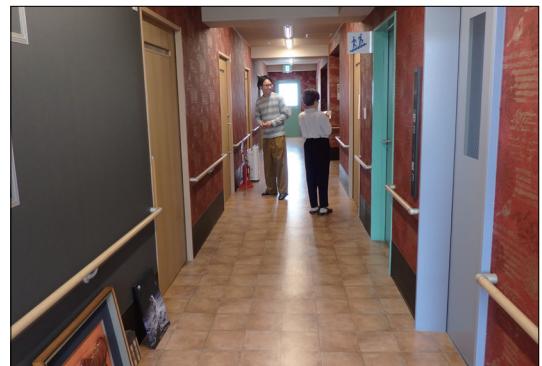


写真 10. 廊下（住戸階①）

居室や廊下の内装は全て異なる。入居時に自分の好きな階、居室を選ぶことができる。認知症の方でも、居室に入ってすぐに自分の部屋であると認識できる。

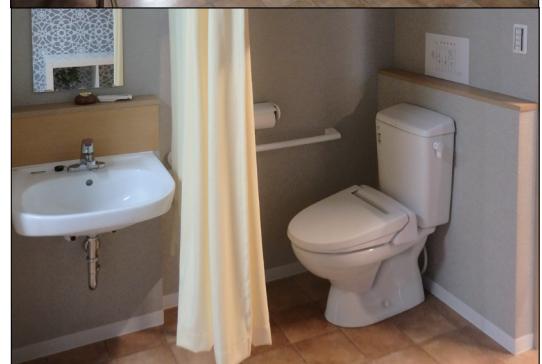


写真11 居室①と水回り

居室内のベッド、クローゼット、カーテンは最初からついている。部屋の内部には緊急時にスタッフを呼ぶことができるコールボタンがある。

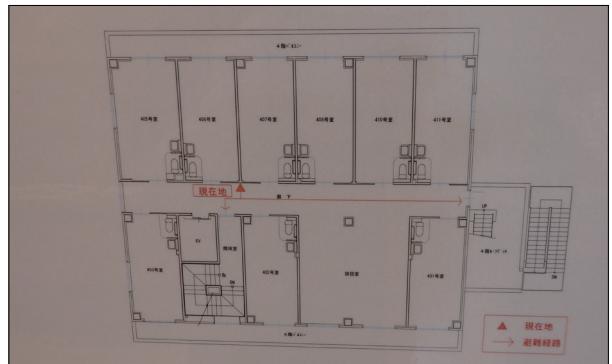
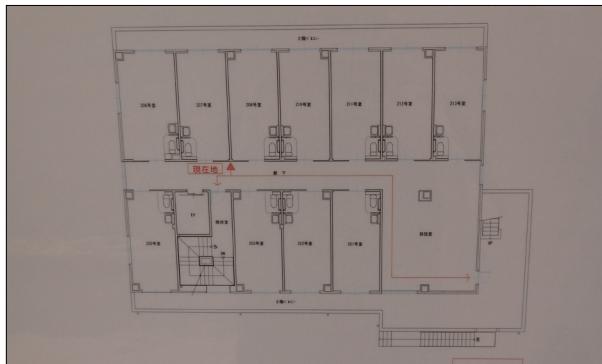


写真 12. 2階平面図と4階平面図

参考文献

1) Soar, 「これが現代版の「大家族」！介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」で子どもから高齢者までが楽しく暮らす」,<<https://soar-world.com/2017/12/20/happynoierokken/>>, 参照 2019.3.28

■建物

ろっけんのコンセプトは「ろっけん道から世界旅行を始めよう」である。そのコンセプトに添って、1階から6階までが、「港」「昭和の六間道」「アジア」「アメリカ」などのテーマで装飾されている。居室フロアになっている2～6階には、それぞれの階のテーマに合う壁紙が貼られ、テーマに合う家具や雑貨、小物達が飾られて世界観が演出されている。雑貨は、入居者の方から「敷金」代わりに貰ったり、ろっけんに遊びに来る地域の方にいただくこともある。

■課題

困っていることは特にない。ハード面は大きな問題ではないので、気にしてない。大事なのは使われ方の方だと考えている。

これから野望は色々ある。もっとグローバルに、そしてもっとホワイトに、大家族がメインになるように試行錯誤していきたい。



写真 13. 階段

階段の壁は黒板になっていて、遊びに来た人が自由に書き込むことができる。

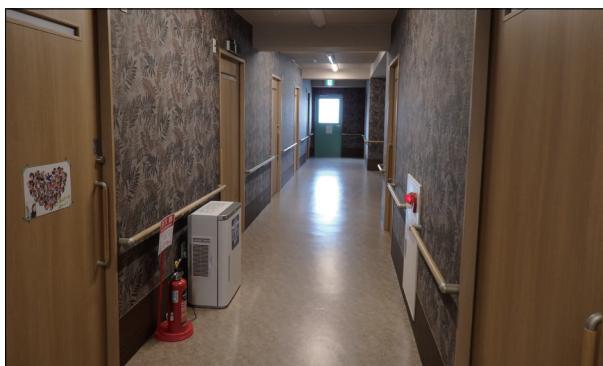


写真 14. 廊下 (居室階②)



写真 15. 居室②



写真 16. 談話室①

2～5階にある談話室の様子。この写真のように使っていない時もあれば、ある入居者が親戚を読んで新年会をしたり、職員と子ども達も集まってパーティーをしたりする事もある。



写真 17. 談話室②

写真 15 とは違う階の談話室。この日は洗濯物を干すスペースとなっていた。余裕のあるスペースが、暮らしをより豊かにしている。